

## <投資の裏側>

### 金融資産の日米格差 ～人生100年時代の資産形成①～



「投資INSIDE-OUT」～人生100年時代の資産形成～では、将来へ向けた資産形成の観点から考えていきます。



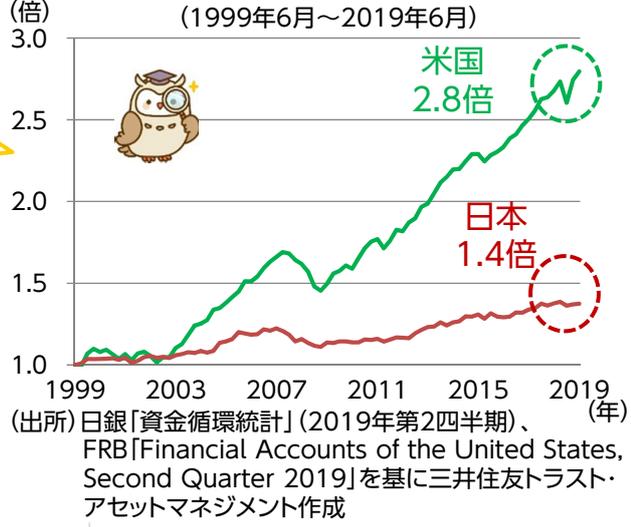
#### ◆米国の家計は資産運用でメリット？

2017年9月、首相官邸に安倍首相を議長とする「人生100年時代構想会議」が設置されました。ここでは、**人生100年を見据えた「資産形成」**が重要な論点となりましたが、日本の国民金融資産は、「資産形成」されているのでしょうか？

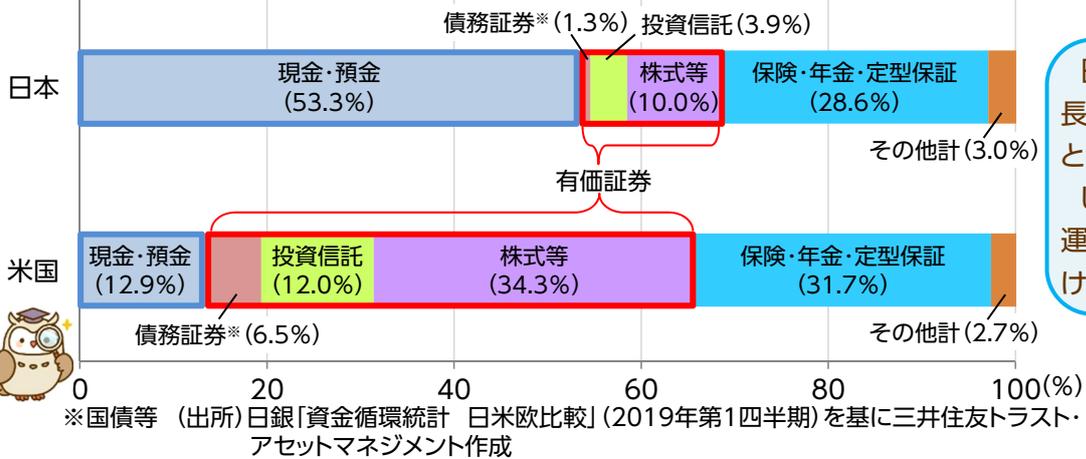
日本国民の金融資産は**過去20年で1.4倍**になっていますが、米国の国民金融資産は同期間でなんと**2.8倍**に増加しています(図1)。この差は一体何にあるのでしょうか。

日本の家計金融資産構成は、**53.3%が現金・預金**で、株式や投資信託など有価証券は15.2%に過ぎません。一方、**米国の家計金融資産は、有価証券が52.8%**と過半を占めます(図2)。

【図1】日米の家計金融資産額の伸び



【図2】日米の家計金融資産構成



日本では、物価が下落する「デフレ」が長く続き、現金・預金がより安全な資産として好まれる傾向にあります。しかしその間に、米国では家計で資産運用が行われ、運用益などメリットを受けていました！

人生100年時代が到来する中、家計の金融資産が**現金・預金に偏りすぎていないか**見直してみる必要があるのではないのでしょうか。(誠上)



#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。